

2 防災・安全

	タイトル	意見等
1	危機管理体制について	○ 後藤田正純徳島県知事は南海トラフ巨大地震や豪雨災害から一意専心及び一心不乱で、徳島県民一人一人の生命・財産・暮らしを守らなければならない。
2	危機管理体制について	○ 後藤田正純徳島県知事は3月14日に、北朝鮮から日本に向けて撃ち込んで来た10発の極超音速核弾道ミサイルから徳島県民一人一人の生命・財産・暮らしを守らなければならない。
3	危機管理体制について	○ 後藤田正純徳島県知事は防衛省整備計画局長さん並びに人事教育局長さんを通じて、徳島県民全員が自衛隊の予備自衛官に登録できるようにしなければならない。併せて、海上自衛隊徳島航空基地に、哨戒機「P-1」並びに哨戒機「P-3C」の配備ができなければならない。
4	阿波踊りを「世界最先端の防災実習フィールド」へ	<p>1. 背景と現状認識 阿波踊りは徳島の誇りだが、資材・人件費の高騰、宿泊能力（キャパシティ）の限界という「構造的課題」に直面している。 一方で、徳島は南海トラフ巨大地震の津波被害が想定される地域であり、有事の際の「仮設インフラ」の展開能力が生存を左右する。</p> <p>2. 提案内容：フェーズフリー型・仮設インフラの導入 日常（祭り）時：駅前や公園に、移動可能な「コンテナホテル」や自律型の「循環式シャワー・手洗いユニット」を大規模に展開。観光客の宿泊不足と衛生課題を解決し、収益化を図る。 非常（震災）時：これらの設備を即座に避難所へ転用する。</p> <p>3. 「祭り」を「大規模演習」と位置づけるメリット 練度の向上：年に一度、数万人規模の流入に対して仮設インフラを設営・運用することで、行政と民間業者の「設営・補給・撤収」のスキル（兵站能力）を実戦レベルで維持できる。 市民の安心感：最新の防災技術を「お祭り」という楽しい文脈で日常的に体験しておくことで、パニックを抑え、心理的な「防波堤」を築くことができる。</p> <p>4. 結び 「阿波踊りにぶら下がる」構造から、「阿波踊りが地域を、そして命を守る技術を育てる」構造へ。徳島から世界へ発信できる、新しい「ノブレス・オブリージュ（持続可能な公共の形）」としての祭りを提案します。</p>